

## 本との出会い

図書館司書長 尾崎 弘美



絵：原田 文子

新入生の皆さんは、高校を卒業したばかりの人が多くと思います。そんな皆さんの中には読書と聞いて、「勉強」と結びつける人が多いのではないのでしょうか。それもマイナスの感情を伴って。本を読むより実体験が重要だという考えもあります。それも確かです。頭でっかちの人間に魅力を感じることは少ないかもしれません。

これからの学生生活で皆さんは人生の方向を決めるかもしれない、その為の数年間を生きていくのです。高校生までの自分とは違います。さて何から始めましょうか。好きな事柄をとことん学ぶ。思索を深めていきたい。いろいろな人との出会いもあります。その中で自分はどのような人間なのか自身と向き合っていく必要も出てくるでしょう。何を学ぶにせよ、そこには人がいます。人が身に着けないファッションは無く、人が住まない住宅はなく、人に関わらないデザインはないのではないのでしょうか。

さまざまな人の生き方、考え方があること、想像もつかない世界があること、歴史があって今があること。「勉強」ではない読書があなたの心の目を開かせてくれるでしょう。

物理学者で随筆家の寺田寅彦が昭和9年に著した「天災と国防」\*に「文明が進めば進むほど天然の暴威による災害がその劇烈の度を増す」とあります。東日本大震災後にこの文章に出会って私は衝撃を受けました。文明が進むのは良いことに繋がると漠然と考えていたからです。岩波文庫と一緒に収められている「災難雑考」とともに興味深く読みました。

ほかにも帚木蓬生の小説「安楽病棟」を読んで人間の悲しさに胸をつかれたり、ファンタジー「精霊の守り人」シリーズから民族、国家、人、というものについて考えさせ

られたり、石井光太のルポルタージュであまりにつらい現実を知ってしまったり、「もしどら」でマネジメントを学んでみたり、展覧会で鑑賞した絵を画集で見ると細部にこんな細工がされていたのか、という楽しい気づきがあったりもしました。

本を見つける方法に「芋づる式」と「ブラウジング式」があります。

映画を見て原作を読む。気に入って同じ作家の別の作品を読む。同じテーマの本を違う作家で読む。これが芋づる式です。好奇心から興味の赴くままに調べて深まっていく知識に手ごたえを感じるでしょう。

ブラウジング式は、本屋さんや図書館で書棚を眺めながら探す方法です。なんとなく眺めていると何か呼びかけてくる時があります。ちょっときれいな背表紙の色だったり、タイトルのロゴが好みだったり。意外とそんなところから出会えたりするのです。あるいは探していた本を見つけた、その隣の右上の棚にひっかかりを感じます。なぜか、たくさん並んだ本の中から自分に向かって光ってくるものに気がつく一瞬があるのです。

自分で決めた囲いからちょっと外れたところにそれはあるかもしれません。今の自分には必要ないと切り捨てそうになるかもしれません。でも何かひっかかりを覚えたら手に取ってみてください。将来の自分に投資を、なんて大げさなことではなくても、あなたの若い柔軟な心の隅にとどまって、いつか何かの形で表れてくる。それが読書の醍醐味ともいえるのです。

あなたの一冊を、いや一冊ではなく何冊ものあなたの本を見つけてください。

\*「寺田寅彦随筆集 第五巻」岩波文庫所収

## 図書館だより

BUNKA GAKUEN LIBRARY

文化学園大学・文化ファッション大学院大学・文化服装学院・文化外国語専門学校  
東京都渋谷区代々木3-22-1 TEL.03-3299-2395 FAX.03-3299-2604

No.164

文化学園図書館

2017年4月5日発行

## 図書館だより リニューアルに寄せて

文化学園図書館長 瀬島 健二郎



絵：瀬島 健二郎

新入生の皆さん、入学おめでとうございます！『図書館だより』は本号から、白黒印刷からカラー印刷に変更しました。少しでも手に取ってもらい、関心を持って読まれ、図書館が利用されるようになることを願っています。

図書館では、約33万冊を超える図書、約1千タイトルの雑誌、それに様々なデータベース類が皆さんの利用をお待ちしています。

本学では多くの学生や先生方がファッション関連分野を学び研究することから、この分野の資料は国内のみならず、世界的にも最も充実している図書館と評価されています。その為、多くの卒業生や関係者にも利用されています。貴重書や先生方の研究成果はインターネット上に公開しています。勿論、大学図書館ですので、ファッションに限らず、全分野の資料を所蔵しています。

何か分からないことがあれば、図書館職員にお気軽にお尋ね下さい。必ず皆さんの満足の行く回答をお返しいたします。

文化学園図書館の歴史は、1950(昭和25)年の文化女子短期大学の開学に伴い、文化女子短期大学図書館として始まりました。14年後の1964(昭和39)年には文

化女子大学の開学により文化女子大学図書館に改称し、2011(平成23)年には校名変更により文化学園大学図書館に改め、現在に至ります。対外的な名称は大学図書館ですが、文化学園の4校の全学生と教職員を対象にサービスしています。それ故に、図書館入口には文化学園図書館の看板を掲げています。

インターネットが普及し、携帯・スマホ・タブレット等をほとんどの学生が利用しています。デジタルな環境に浸る時間が増えることで、図書館が使われなくなるのではないか、という課題に図書館は直面しています。そこで、デジタル資料(電子書籍・電子ジャーナル・データベース等)の導入を進めています。今では資料費中のデジタル資料の比率が2割にまで増えました。

図書館を快適で効率的に利用できるようサービス改善に努めています。開架閲覧室の図書の並びが和書・洋書別々だったものを1本化し探し易くする、閲覧席に照明電源付き仕切りを設ける、視覚に訴えるビジュアルブックスコーナーを設ける等を行いました。インターネットにより自宅から返却日の延長やデータベースの検索が可能になっています。これからも日々サービスの向上に努めますので、学園生活に図書館を是非活用して下さい。

不明な点は下記にお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください

TEL:03-3299-2395 [URL]<http://lib.bunka.ac.jp>

twitterとfacebookにて図書館の情報を発信しています

[twitter] <https://twitter.com/bunkalib> [facebook] <https://www.facebook.com/lib.bunka>

